

平成29年度 病虫害防除情報

平成29年8月9日
発表：福島県病虫害防除所

県南、浜通りで斑点米カメムシ類のクモヘリカメムシが 平年より多く発生しています。 適切な防除により、斑点米の発生を防ぎましょう。

- 1 対象作物：水稲
- 2 病虫害：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）
- 3 対象地域：中通り中南部及び浜通り

発生状況

- (1) 7月下旬の水田畦畔すくい取り調査で、中通り南部及び浜通りでクモヘリカメムシ（写真1）の発生地点割合及びすくい取り数が平年を上回りました（図1、2）。
- (2) クモヘリカメムシの生息地はこれまで、浜通りや棚倉町以南の中通りに限られていましたが、今回のすくい取り調査で新たに、県中である古殿町でまとまった数が捕獲されており、クモヘリカメムシの生息地拡大が懸念されます。
- (3) 天候予報（8月3日発表1か月予報）によると、期間前半、気温はかなり高いと予想され、クモヘリカメムシの活動が活発になると推測されます。

防除対策

- (1) 8月に入り、越冬成虫がしだいに減少する一方、新成虫が8月中旬頃に発生すると推定されます。この時期に水田内で成虫を見かけたら要注意です。
- (2) クモヘリカメムシの防除適期は穂揃期頃です。出穂期にほ場内で成虫を確認したら防除を実施してください（表1）。
また、割れ粃はカメムシ類による吸汁を助長するので、割れ粃の発生しやすい品種にあつては、出穂20日後頃に追加防除しましょう。防除にあたっては、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。
- (3) 水面施用剤は、クモヘリカメムシには効果が劣る場合がありますので、使用薬剤の選択には留意してください。
- (4) ミツバチが飼養されている地域で薬剤防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努めてください。

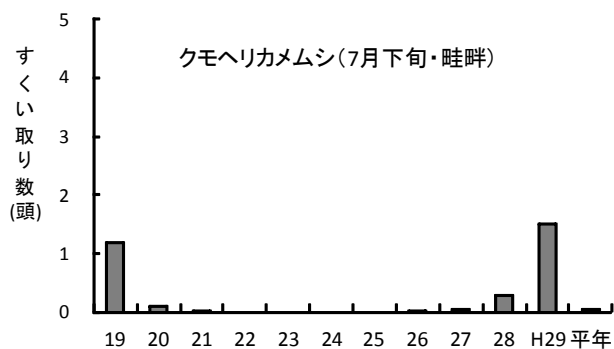


図1 7月下旬、水田畦畔におけるクモヘリカメムシのすくい取り数(20回振り)

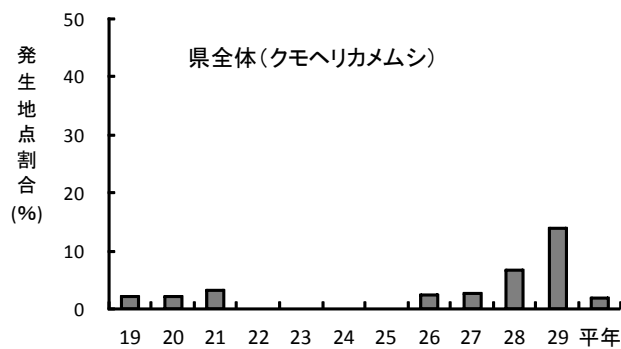


図2 クモヘリカメムシの発生地点割合(7月下旬、水田畦畔、20回振り)

表1 クモヘリカメムシの防除薬剤(茎葉散布剤)

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期(収穫前日数)	使用濃度、10a当たり使用量
アルバリン粉剤DL 蚕	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3kg
キラップフロアブル	エチプロール	2B	収穫14日前まで	1,000~2,000倍 (散布液量140~150L/10a)
キラップ粉剤DL	エチプロール	2B	収穫14日前まで	3~4kg
スタークル液剤10 蚕	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	1,000倍 (散布液量140~150L/10a)
スタークル粉剤DL 蚕	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3kg
スミチオン乳剤	MEP	1B	収穫21日前まで	1,000倍 (散布液量140~150L/10a)
スミチオン粉剤3DL	MEP	1B	収穫21日前まで	3~4kg
スミバッサ粉剤20DL	BPMC	1A	収穫21日前まで	3~4kg
	MEP	1B		
ダントツフロアブル 蚕	クロチアニジン	4A	収穫7日前まで	5,000倍 (散布液量140~150L/10a)
ダントツ粉剤DL 蚕	クロチアニジン	4A	収穫7日前まで	3~4kg
MR. ジョーカー粉剤DL	シラフルオフエン	3A	収穫7日前まで	3~4kg



写真1 クモヘリカメムシ(福島県農業総合センター撮影)

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病害虫防除所)まで御連絡ください(TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727)。
- 本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)でもご覧になれます。